

分解者による分解

班員 後藤 海翔 島津 晃司郎
栗原 英一郎 黒木 大夢 青木 遼太

指導者 今仁 延彦先生
甲斐 由美桂先生

研究の目的

土の中のミミズなどの分解者が土やそこに生える植物にどれほどの影響を与えているのか知りたかったから。

仮説

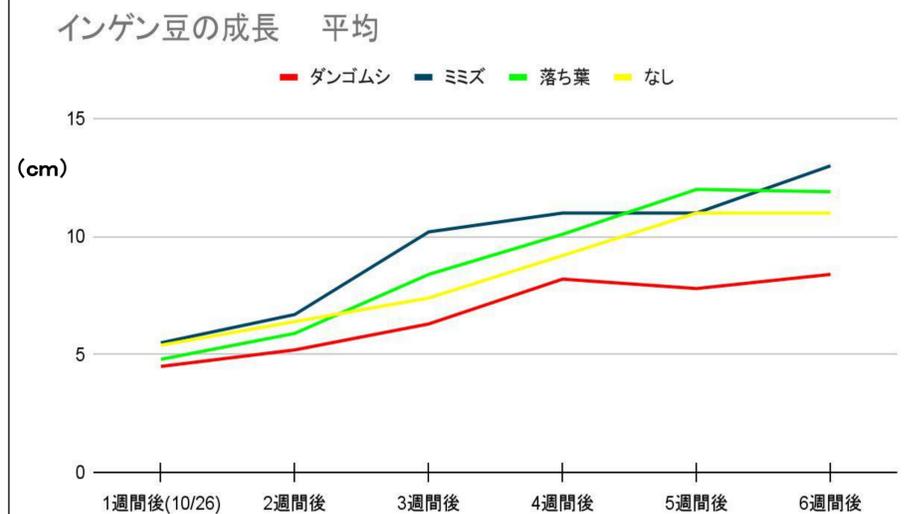
ミミズなどの普段見る分解者がいる方が植物の成長が速い。

研究方法および状況

- ・数個のプランターを用意する。
- ・各プランターに別々の分解者と分解物を入れる。
- ・土は市販の土を使う。
- ・植物の成長を長期間記録する。
- ・ミミズと分解物(落ち葉)が入ったプランター
- ダンゴムシと分解物(落ち葉)が入ったプランター
- 分解物(落ち葉)のみ入ったプランター
- 土だけのプランターを用意する。
- ・植物(インゲン豆)の成長を見ることで分解による栄養分の違いをみる。



実験結果



1. 仮説通りミミズのプランターが1番育った。
2. ダンゴムシのプランターが1番育たなかった。
3. 6週目に落ち葉のプランターとなしのプランターは同じくらいだった。
4. なしのプランターに6個とミミズのプランターに8個の豆がなった。
5. 7週目は枯れていたなので結果に入れなかった。

考察

- ・仮説と違ってダンゴムシはそこまで育たなかった。
- ⇒ダンゴムシの入ったプランターは種が食べられたので生えている数が少なかった。
- ・育てている途中で寒くなったので、全体的に成長が止まって枯れた。

参考文献

持続可能農業の救世主、イエバエが堆肥と飼料を生み出す仕組みとは
～ムスカ CEO 流郷綾乃(前編)| 農業とITの未来メディア「SMART AGRI(スマートアグリ)」(smartagri-jp.com)

今後の課題

7月ごろから始めた方が良かった。
母数を増加して更に正確なデータをとった方が良かった。